

## 第5回「設楽ダム連続公開講座」運営チーム会議 会議録

開催日：平成24年7月28日（土）

場 所：愛知大学豊橋キャンパス「記念会館」小講堂

（戸田土地水資源課長）

定刻になりましたので、ただ今から第5回「設楽ダム連続公開講座」運営チーム会議を開催させていただきます。開催に先立ちまして、ご報告をさせていただきます。鷺見委員におかれましては、前回の運営チーム会議において辞任の申し出があり、事務局からも慰留をさせていただいておりました。しかしながら、このたび、ご意向を尊重し、鷺見委員は7月13日付けをもちまして、この運営チームを離れられることになりました。これに伴い、同日付けで、名古屋工業大学大学院教授の富永晃宏先生に、新たに運営チーム委員を委嘱させていただきましたのでご報告します。

それでは、改めて、新委員のご紹介をさせていただきます。本日の運営チーム会議よりご出席いただきました名古屋工業大学大学院教授の富永晃宏様でございます。専攻は、水理学、河川工学と伺っております。三河湾流域会議の議長や愛知県河川整備計画流域委員会の委員などもお務めいただいております。富永様、これからどうか宜しくお願いします。一言お言葉をいただけたらと存じます。

（富永委員）

このたび、この委員を引き受けることになりました名古屋工業大学の富永でございます。

専門はご紹介いただきましたように水理学、河川工学であります。この設楽ダムに関する県民の理解を深めるという趣旨の公開講座に少しでもお役立てればと思います。これから取組みさせていただきたいと思いますので宜しくお願いします。

（戸田土地水資源課長）

ありがとうございました。それでは、会議の取り回しにつきましては、運営チームのリーダーであります戸田様にお願いします。

（戸田リーダー）

おはようございます。今日は、午後から第1回の公開講座も予定しております。運営チーム会議も時間が限られますのでご協力をお願いします。本日から、富永先生も加わっていただきますので、宜しくお願いします。

それでは、はじめに本日本配布しました資料の確認をさせていただきたいと思いますが、次第、出席者名簿、配席図、それから資料1から資料3が配られております。

それでは、議題1の第4回運営チーム会議の確認とありますが、資料1をご覧になっていただきたいと思います。議論できたこと、議論できなかったこととありますが、議論できたこととしては、連続公開講座の運営方式というものがだいたい先回に固まった。デジタル技術、広報手段、チラシ、これらは、第2回セミナーのところで議論いただきたいと思います。それからフェイスブックが公式の立ち上げを検討するとなっておりますが、これは進捗しておりますので、後で事務局から報告をお願いします。公開講座の目標についてということで、ダムに関する公正な情報を入手可能な状況に設置するというようなことで、一つの方向性というものを確認させていただいた。「なぜ知らせるのか」、「広く県民に知らせるには」、「公平性の確保」などがまとめられております。

次のページに移りまして、第1回公開講座であります、「とよがわ流域ってなに?」、本日の午後1時10分から午後4時まで、担当が井上委員、蔵治委員で開催されます。これについては、すでに決まっている内容ですが、もし補足するところがあれば宜しくをお願いします。それから、配布資料について、今日は諸団体から午後の公開講座で配布したいということで、何件か申込みが出ております。質問シート、振り返りシートは、コーディネーターに一任とありますが、完成したものが配布されることになっております。次の第2回公開講座については、原田委員からご説明をいただきたいと思います。テーマは「設楽ダムは何のため?」となっております。また、運営チーム会議については、本日開催ですね。

そして、議論できなかったこととして、大きく2点ありまして、1点目は、必要な専門性に対応した外部意見の導入ということで、専門家に運営チーム会議に加わっていただく、あるいは発言していただくためには、要綱の改正が必要であるということで、議題となっております。それから、第2回公開講座を決めていきたいと思います。

それでは、先程のフェイスブックについて事務局から補足をお願いします。

(事務局)

おはようございます。事務局の加藤と申します。前回のチーム会議において、蔵治委員からご提案がございました県の公式フェイスブックですが、情報発信形式という形ではございますが、7月2日からご利用を開始しております。委員の皆様にはメールでご連絡しているところですが、この場で改めてご報告します。なお、県のホームページとともに相互にリンクをはらせていただいておりますので、どちらからでもご活用いただければと思います。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。資料1について、あるいは、今日の午後の公開講座について、補足など井上先生、蔵治先生ありますでしょうか。

(井上委員)

次のテーマにも関わりますが、本当でしたら、一任された第1回の質問シート、振り返りシートを資料の中に入れておいた方がよかったかなと反省しております。

(事務局)

第1回公開講座資料の封筒の中に入っております。

(戸田リーダー)

フロアーにも配られておりますか。

(事務局)

午後からお配りする予定となっております、部数が足りなくなる可能性がありますので、ご容赦いただきたく存じます。

(戸田リーダー)

それでは、口頭で補足するように致します。

それでは、議題2でございます。今日は議題が4つ、その他を入れると5つですが、設楽ダム連続公開講座開催要綱の改正についてということで、資料2について事務局から説明いただけますか。

(事務局)

先程の前回議論できなかつたところでございます。前回のチーム会議におきまして、委員の中で対応できない専門性を求められる場合に対応できる仕組みについて、皆様から事務局に検討してもらいたいというご提案がありましたので、要綱第3条を必要な専門家の方が参加し、チーム会議で発言できるようにするものです。具体的には、第3条に第3項を加えて、助言を受けることができるよう改正させていただくものです。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。この点についてご質問はございませんか。

(小島政策顧問)

ありがとうございます。文書だけ直してください。「運営チームは、運営チーム会議に必要な専門家の参加を求め」にするか、「運営チームは、必要な専門家に運営チーム会議への参加を求め」にするか、どちらかと思います。

(事務局)

お聞きした限りでは後者が良いかと感じましたが、運営チーム会議でご判断いただければと思います。

(戸田リーダー)

それでは、趣旨は変わらないと思いますが、「運営チームは、必要な専門家に運営チーム会議への参加を求め」に改正することでよろしいでしょうか。(了承)

具体的には、運用はこれからということになりますが、議題2についてはこれで終わりたいと思います。それでは、議題3について担当委員の原田委員から、ご説明をお願いします。

(原田委員)

おはようございます。第2回の企画案は、ほぼ前回の会議の時と変わっていないんですけれども、変わったところは、講師の方に40分の話題提供の時間をとっていましたが、35分にしました。今日の第1回セミナーの講師の時間が30分ということでしたので、5分多いですけれども準じて合わせました。話題提供のところで、休憩10分ありますが、これは、講師と講師の間に10分の休憩を入れるということです。大きな休憩が30分ありますが、この休憩時間に質問シートを集めまして、後半の1時間あります質問の受付となります。質疑応答を60分とっていますので、その中で、どの質問にするかを、委員の皆さんで総力を挙げて30分でセレクトしなければならないということになりますがよろしいでしょうか。質問をどんなふうに書いていただくかということで質問用紙があります。160字以内で書いてくださいとしたのは、30分の中で質問を完結にまとめたいからということです。どういうふうに質問をカテゴライズして、30分の中で分けたりするかについては、当日でよろしいでしょうか。前回、事前には受け付けないということが決まったと思いますので、講師の先生方がお話ししたことに対しての質問に限定をして、セレクトしたらよろしいのではないかと考えています。後ほど皆さんのご意見ををお願いします。30分の休憩では、質問を書かれる方は書いていただいて、私達はその間に質疑応答の準備をするわけですが、参加者の方には、また、サイドイベントで食べ物の提供ができたらいいなかなと思います。これは、またご相談です。富永先生はじめまして、宜しくをお願いします。突然、このような内容で進んでおりますので、先生のご意見をお伺いしながら、先生と私で、司会進行という形になりますけれども、何かご意見がありましたらをお願いします。

(戸田リーダー)

概略をご説明いただきましたが、次回の担当というのが、原田委員がお一人ということで、鷺見委員の代わりということになりますと、富永委員が河川工学をご専門という

ことでお受けいただければということですが、よろしいでしょうか。

(富永委員)

はい。急に、今日の話ですけれども、なんとかやらさせていただきたいと思います。

(戸田リーダー)

それでは、お二人が担当の委員ということでよろしくお願いします。蔵治先生何かございますか。

(蔵治委員)

特にございません。

(戸田リーダー)

では、担当委員が決まりまして、テーマが「設楽ダムは何のため?」、日時が10月6日(土)ということで、今日決定するということがよろしいでしょうか。(了承)

場所は愛知県図書館ということで、第1回が東三河、第2回が名古屋ということは前回決まっておりましたので、愛知県図書館は200人くらい入るところでしょうか。

(事務局)

前回、私どもからは、名古屋で開催する場合には、愛知県図書館5階にある大会議室というところを提示させていただきましたが、今回の会場のようにイスだけ並べれば200~250人くらいは収容できると思います。

(戸田リーダー)

場所は、愛知県図書館とすることよろしいでしょうか。(了承)

サイドイベントという話もありましたが、場所的にはいかがでしょうか。

(事務局)

県図書館の中は、飲食禁止になっておりますので、サイドイベントはそういうものでなければということはあると思いますが、図書館という施設の関係上そういうことは難しいと思われま。

(戸田リーダー)

どなたかご意見ございますか。

(原田委員)

サイドイベントは未定ですので、環境に応じて、1回飛ばしでもいいかもしれません。第1回のサイドイベントに協力をいただくチームぐるぐるさんは、次の内容としてメニューを考えておられ、お願いすればご協力いただけるというお話になっております。こちらの事情もありますので。

(戸田リーダー)

食べ物以外でも何かお話はされておりますか。サイドイベントの内容をどうしましょうか。

(蔵治委員)

図書館の建物の中ということであれば、当然難しいかもしれませんが、図書館の建っている敷地というのはどのようになっていますか。

(事務局)

県図書館に行かれた方も多いかと思いますが、入り口まで、石畳みのスペースはございます。そこで何かできるかどうかについては確認しておりませんが、食べ物の提供は難しいのではないかと思います。図書館の中には、一般の方も入られますので。

(蔵治委員)

検討してみる必要があるかなと思いますけども。すり合わせができないかと。

(戸田リーダー)

それでは、場所は愛知県図書館ということで、サイドイベントについては、場所、内容を含めてすり合わせをしていただくということで、引き続き、原田委員に担当をお願いしてよろしいでしょうか。

(原田委員)

はい。サイドイベントの方も。確か飲食ができるところが館内にあったと思いますし、売店コーナーもあったように思いますので、館内で対応できる可能性について探していただきたい。

(事務局)

5階の大会議室の奥にファーストフード店がありますが、そのところだけは飲食はできますが、その他のフロアは、全部飲食禁止です。食べ物の提供を考えると、建物の外にある石畳みのところでやれるかどうかですが、図書館の大会議室をお借りす

るということですので、どうかなとは思いますが。

(原田委員)

すでにあるお店の場所は、お借りできないですか。

(事務局)

ファーストフード店はそこで営業しておりますので、そこを借りられるということはないと思います。

(原田委員)

難しいですね。

(戸田リーダー)

最後のところは、調整をお願いします。

(原田委員)

わかりました。

(戸田リーダー)

それでは、内容ですが、先程、原田委員から説明がありましたが、講演者が決まったということですね。お二人ということで、お一人が国土交通省中部地方整備局河川部河川計画課長の久保さんから「設楽ダム事業について」、もう一人が京都大学名誉教授の今本さんが河川工学者の立場から「ダムの総合的なお話」で、このお二人から「設楽ダムは何のため」ということについての話題提供と言いますか、基本的な話があるということですね。それから、休憩時間があって、先程、井上委員からもお話がありましたが、シートがちょっと違います。第1回と第2回のシートが違います。質問と振り返りという形で第2回もシートが添付されます。第2回についてのご意見をいただきたいと思いますが、どなたかご意見ございませんか。それでは、富永委員どうぞ。

(富永委員)

はい。質問の仕方ですが、今までの議論が分からないものですから、質問シートに書かれたものだけを司会者は質問するというので、会場からは質問を受けないということですか。

(原田委員)

はい、そうです。

(蔵治委員)

各回のセミナーの運営は、柔軟に考えていきたいというのが基本的な方針だと思います。今日午後に行われるスタイルはスタイルとして、私と井上先生が担当ですので、相談して決めているのですけれども、第2回は担当の原田さんと富永先生のご相談の上で、第1回に揃えるのか、あるいは、ちょっと工夫していくのかは、フレキシブルに決めてよいと私は認識しています。もちろん質問シートはございますが、質問シートの質問した方を指名して、直接しゃべっていただくことも今日は認める予定ですし、恐らく、質問を全くされていない方で、ご自由にとというのは想定していません。

(井上委員)

今日の想定は、第2回資料の中の3質問の時間、3基本設定のところ、会場からの直接の質問は受け付けないとあります。今日は私が司会をやりますが、こちらから質問をして講師に回答していただいて、もし時間があるようでしたら、そこで、それに対して補足の質問をしていただく。ただし、それは質問を書いていた人であって、フロアから新たに質問を受け付けるということはありません。ただ、これもケースバイケースであって、質問がいくつ出るか、時間の兼ね合いもあり、やってみないとわからないところがあって、想定どおりにできるとは自分でも思っていません。その時の雰囲気などに合わせてやりますが、今回は失敗したら、改善していただきたいし、これでいいなと思っていただければ続けていただければ。まずは一回やってみないとわかりません。もし、うまくいかなかったら私が謝るしかないかなと思います。

(富永委員)

はい、大変よく分かりました。そういうことで、今日の様子を見てみてですね。あと60分も時間ももつほど質問がたくさん出るかということなんですけど。そのへんは、もし質問がなければ何か考えなきゃいけないですね。

(小島政策顧問)

サイドイベントを何するかということに関係するんですけど、設楽ダムは何のためというテーマになると、僕らも大学でやるんですけど、プレゼンテーションがあったら、第一に、行われたプレゼンテーションに対する質問をちゃんとしてください、プレゼンテーションが理解できないといけないわけですから、グラティフィケーションをちゃんとやってくださいね、これが講演を理解することなんです。実は、次の段階があるんですね。講演に対してあなたはどう思いましたかということ、これを学生に聞くんです。質疑だと最初のグラティフィケーションで終わっちゃうんですけど、講演を聴いてどう思ったかということ、学生が参加するプロセスなんです。理解をするプロセスの



次に参加をするプロセスをやるわけですね。その先生の意見は賛成、これはこうおかしくて、こういう見解の方が正しいのではないですか、という学生がいろいろ言って、それに対してまた議論を進めていくということによって、学生の理解度とか考案能力とかが高まっていくわけですね。そういう意味では、設楽ダムは何のためということについてはいろんな見解がたぶん出てくるんですね。まず理解をすることが必要なもので、理解の範囲はそうなんですけど、次の段階で私はこう思う、これは違うんじゃないか、違うんじゃないでしょうかというのは質問なのか、違うということであれば、こう思うというのがあるわけですね、これは意見ですけど、そういう参加して考えていくという、意見をどのように考案していくかということも、このテーマだと必要なのかなど。よく会議なんかやるときに、サイドイベントというのは、例えば、ものを検視したり、パネルを作ったりというのを外でやるんですけど、飲んだり食ったりという以外にも、このテーマならあるかもしれないなという気がします。図書館では飲んだり食ったりが難しいということを見ると、パネル展示とは言いませんけど、違うサイドイベントの方法を考えた方が、場所柄から言えばいいんじゃないですかという気がします。ちょっと難しいですよ。図書館は。飲んだり食ったりができませんから。

(戸田リーダー)

小島先生のご提案は、ひとつはシンポジウムの中でどうするかということ、それからシンポジウムの外といたしますか、サイドイベントでパネルをやるというか、パネルを展示してこういうことですよということを考える機会にするということ、ふたつあるように思えるんですが、パネルの展示というのは、ひとつの採用として、図書館であれば、そういうふうに表示をしていく、今回は関係機関が資料を展示したければ資料を展示してくださいというふうになるんですけど、そういうことをひとつサイドイベントの中に入れていく可能性があるということですね。もうひとつは、質問の中ということについては、もちろん、今日全部決めなくてもいいんですけど、第1回の質問については、コーディネーターに一任ということもありますから。しかし、皆さんにご意見があれば、出していただければ。小島先生の意見は、質問と意見を分けて、2回聞くということですか。

(小島政策顧問)

講師が言っていることをまず正確に理解してもらわなくてはいけないし、グラティフィケーションというか、明確にするという質問があるわけですけども、それだけだと理解がさらに深まらないんですね。自分はこう思っているんだけど、実はどうなのかという、意見を一方的に言いまくって、それで終わるとするのは困るんですけど、それとの対話を通じて自分の考えていることとのキャッチボールをすることによって、さらに理解が深まるのではないかと気がするんです。特に、専門用語が飛び交うと段々置

いてきぼりになってしまうんですけど、そうならないように、やっていく必要があります。法律用語で、例えば欠格事由っていうんですけど、僕は法律屋だから、みんな分かっているというつもりで話していると、欠格ってなんですかとか、事由ってなんですかって、事由ってあんまり使わないですね、法律屋しかね。そういうことにならないようにマネジメントしていく必要がありますね。

(井上委員)

小島先生からの話なんですけど、講義をしている時に2～30人であれば、質疑応答は出てくるんですが、100人相手に質疑応答というのは難しいと思います。今回は理解を深めるところまでが、広く一般にということなので、理解を深めるところまでかなと思ってまして、意見のところにつきましては、振り返りシートのところに、感想、意見を書くところがありますので、そこに意見を書いていただいて、それに対しての見解とかがあれば、3回目以降のところでも深く議論できるようにしていくために、そういう意見を受けるといことにしないと、なかなか100人相手に次の段階を求めるのは難しいと思います。

(原田委員)

小島先生の意見を聞いていると、感想、質問だけで集まるかなと思いましたが、また今、井上先生の話だと、100人以上対象だと、質問シートにまとめて、1時間過ぎた方がいいのかなと、ちょっと迷っていますけど、自分たちの2回目の質問シートでやはり気になったのが、160文字以内と枠で切っているのは、短い時間で書くのは難しいのかなとちょっと思いました。ですので、枠を取ることに変更いたします。自由に書いてもらえるような、スペースにいたします。60分、質問出るのかという恐れを持っていなかったもので、どちらかというと、質問をシンプル化するための排除的だったのかなと思いましたが、ほんとに今日やってみないと分からないんですけどね。たくさんの質問が集まるようにしたいと思いました。質問をとというだけでなく、感想も聞かせてください、と変更します。講演を聴いてのご意見感想をどうやって講師の先生方とキャッチボールしていくのかというのは、ちょっと段々現実的になって見えなくなってきていますので、ちょっとよく考えます。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。

振り返りシート、質問シート、ツールをふたつ使うというのは、そういうこともあるかと思しますので、そこは考えていただいて、そこは大きな変更があるということでしたら、内容的には質問的な部分と意見的な部分をいただいて、それはコーディネーターの方が振り分けて、その回答ができればいいのかなというふうに思いますが。

(原田委員)

会場の中の書いた方に、書いた方の中で選ばれた方だけしゃべれることになりまして、その人の言葉のトーンで質問してもらおうと、会場から盛り上がるのかなという気がしてまいりました。ちょっといろいろ変わってきてすみません。

(戸田リーダー)

それは裁量ですね。コーディネーターの裁量ですね。今日も井上先生も書いた人から直接質問を受ける場合もありますから、それは裁量なんで、やっていただければいいですね。第1回、第2回は総論的になっておりますので、このメモも比較的シンプルな質問及び意見を含めてシンプルに包括して、少し突っ込んだ話は3回目以降となっておりますので、その時の時間の関係もありますが、そういうふうな感じになるのかなという気もしております。

(小島政策顧問)

蔵治さんが順応できるということなんですけど、どういうふうにやるのが一番いいのかというのはやりながら考えて行くということだと思います。サンデル先生の熱血教室みたいなものは、ものすごくみんな予習しているものだから、それと、事前にこの人はこう、あの人はこうと、勉強した上でやっているから、いきなりああいうふうにできないですよ。誰々と誰々が聞くというようになっているので、ああいうふうになるんですけど、その場でっていうのはどうやってやるとああいうふうになるのか、結構難しいですね。あまり枠を決めないで、その場の臨機応変にやっていくのが不満が残らない方法なので、確かに100人を超えると大変なんですけど、やっぱり参加意識を持ってもらうというのがいい会合だと思いますので、そういうやり方を心掛けていくというのがいいんじゃないでしょうか。

(蔵治委員)

今回第1回の準備をしていて、前回第4回のチーム会議で、当日いきなり資料を配るのではなく、あらかじめ公開して欲しい、そうすれば質問が準備できるというご提案もありまして、今回、私どもは若干それに応える努力をして、締切を少し早めに設定しようとしていたんですけど、限界もありまして、皆さんに今日の午後の講演、講師の講演の配布資料を公開できたのは昨日だったんですね。それで昨日の今日というのは、あまりにも時間が短すぎて、大変申し訳なかったと思っているんですけど、それをもう少し早くできれば、かなり事前の予習といいますか、今、小島政策顧問がおっしゃったように、予習みたいなものが入る余地があるので、第2回の検討課題かなと思います。

(戸田リーダー)

そうですね、今日のは、昨日の昼頃ですね。次回はもう少し早くということで。1週間くらい前にもし可能なら、できれば、予習が可能となりますね。ただ、ちょっと演者との関係がありますので、その都度打合せをしていかななくてはいけません、一番のポイントは、どういう講演がなされるかというところが、後ろの質疑内容に入ってくる前提かと思えますけど、今案ではこうなってるんですけど、国土交通省の久保さんからは、内容目的というところで、設楽ダムの計画、何のためにどうやって何が得られるのかなど、役所の方が話すので、ちょっと話が堅いかもかもしれません。あらかじめこういう話をしてくださいということ整理しておき、講演者にお伝えするということです。次に今本さんにつきましては、ダムの総合的なお話をさせていただきます。専門性と市民感覚の両方を踏まえつつ、説明していただける今本先生に、日本の他の様々なダムのケースも紹介していただきますというふうになっています。これにつきまして、各委員のご意見があれば、それを参考にして、ご担当のお二人からアプローチされることになろうかと思いますので、ご意見はいかがでしょうか。

(蔵治委員)

内容については、結構だと思います。それで、原田さんとB氏と書いてあるんですが、司会というか、全体の進行役については、今日、戸田リーダーが進められるということで。この第2回は原田さんという理解ですか。

お二人で司会をされるというイメージで、このB氏というのは、担当に決まりました富永先生にお願いしてもいいのかというあたりがちょっとイメージできないのですが。

(戸田リーダー)

原田さんから、起案者としてご説明を。

(原田委員)

富永委員がこの日、参加できるかがまだ分からなかったものですから、蔵治委員にお願いをしたり、できたらなと思っていたんですけど、今日正式にB氏というのはどなたになるのか、決めなければならないですね。私は専門性が全くないので、質問を整理し、まとめることはできます。司会としてです。ファシリテートするといっても専門的なことではないので、専門的に分かる方がB氏という位置付けです。なので、サポートなしでは、私、司会ととてもできませんので、お願いします。

(戸田リーダー)

今日の例にならうと、総合司会は原田さんでおやりになって、質問のコーディネートを、

ファシリテート、今日は井上さんですけど、そこを富永先生にお願いするということにすれば。

(富永委員)

そのへんはやらせていただきたいと思います。

(原田委員)

お願いします。特に1時間の質疑応答のところですよ。このあたりをどう展開していくかということが、私はあくまでタレントの司会としての進行はできますけど、振っていき形ができると、とても円滑だし、聞いている人もとてもわかりやすく、一般の言語で私は行おうと思っていますので、うまくコーディネートできればと思います。

(戸田リーダー)

ありがとうございます。運営についてはそういうことで。富永さん、いかがですか。

(富永委員)

そういうことで、もし、原田さんが分からないことであれば、私が。私がお答えできないことがあれば、原田さんにお返ししなければ。

(原田委員)

そんなことがあるかな。このセミナーには、私のような主婦であったり、一般の方に広げるために、その意味は何ですかということをごんごん聞けたらと思います。専門性がある方にとっては、その部分は退屈なのかもしれませんが、うまく専門性のある方々にとっても、こういうことが大事なんだなと気づいていただける場になると、両側面あっていいかなと思っています。

(戸田リーダー)

ありがとうございます。特に講演が35分というのは、なかなか短い時間ですから、講師に話をさせていただく時には、どの質問を応えとか、あるいは詳細の問題は3回以降にですね。

(原田委員)

いかに次に続ける、次に来ていただけるかという、お話の続きを見せるということですね。

(戸田リーダー)

じゃあ、第2回については、大体そういうことでよろしいでしょうか。担当委員は、原田委員と富永委員ということで。

(蔵治委員)

ひとつだけちょっと気になりまして、国土交通省さん、久保さんのお話では、両方もかもしれませんが、この運営チーム会議の前の方の会で、一応、歴史という観点については、すべての会に考慮することが確認されていますので、やはり設楽ダム計画にしても、それ以外のダムについても、やはり歴史を踏まえた、長い時間の中での経緯みたいなものも是非盛り込んでいただければいいかなと思います。

(戸田リーダー)

歴史的背景ですね。今日突然出てきた話ではありませんので。今日は流域という話ですが、全体を捉えて、設楽ダムの全体像を捉えるという、今回連続講座ですので、是非、全体を見ていただきながら、講演をしていただければと。

よろしいでしょうか。その他で、若干質疑のところでは、進め方については残っているところもありますけど、これはご担当のお二人でご相談いただいて、当日おやりいただくこととなります。それから、サイドイベントについては、どこでやるかということについては、場所の制約ということもあわせて、ご検討いただく。内容的にはパネルの展示というような、内容に関するサイドイベントと言いますか、再考の提言もありましたので、これもすり合わせていただいて、もし必要であれば、早い段階でお願いする必要がありますので、ご検討いただきたいと思います。あとですね、若干、振り返りシートの中で気になったのが、ネット映像視聴版という、3ページですね。これがどういうふうにするかということで、手段、この段階では分かりませんが、ここのところを質問シートと振り返りシート、これは、講演の中での質問及びそれを通して得られた状況ということですね。前回、事前の質問ということはやめましょうということになります。もうひとつあるのは、ネットで観た人が何らかのレスポンスするということについて、どのように考えるかということが残っているかと思いますが、もしご意見あれば、はい、どうぞ。

(小島政策顧問)

手段が分かりませんというのは、何が分からないんですか。対象がよく分からないんですが、ネットで観ていただいた人から来るのは、紙よりも電子情報がいいんですが、整理上ですね、電子情報でいただくという手段だと思んですが、そのいただいたものに対するレスポンスの手段が分からないということでしょうか。

(原田委員)

たぶん、ネット配信で観て、それでも感想とか、観ましたよというレスポンスですよ。その方法は、たぶん、環境を作らないと、ページを作っていたかかないといけないので、県のホームページの方になるのか分かりませんと、鷺見先生が書いたのだと。すみません。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。

(小島政策顧問)

意見を求める、または意見を受け付ける場合は、ここに意見をくださいとアドレスを作って、そこにもらう。それに対するレスポンスをどうするかと。手段であれば同じようにそのホームページ上に載せる。内容であれば、誰がそのレスポンスに対応するのかというのが内容ですね。講演をした人にと来て質問に対して答えていただくか、意見は意見としてそのまま掲載することにするのか、という対応方針を決めておく必要がありますね。講演者が何度もあとまで質問が来ると、講演する側に立つと、これで終わったかなと思ったらあとでどんどん質問が来て際限が無いとなると、演者として大変なんですね。一定時期まで来た質問に対しては答えるということをやめお願いしておく必要があります。手段はインターネットだし、内容はそういうレスポンスを行うということでしょう。

(原田委員)

映像を見た方に、このシートを貼り付けることをしなくてもいいですよ。

(戸田リーダー)

やらないということも一つの方法だと思います。映像のところまでは対応しないということも考えられます。それから質問だけアップするか。もしくは回答までアップするか。

(原田委員)

たぶん、このホームページの中で、質問できるようになると思うのですが、県の方で対応すれば十分かなと思います。サイト開くと映像を見るのは県のホームページですよ。

(事務局)

今の原田委員のご質問ですが、ユーストリームで流すことを前提としておりますが、

リンクは愛知県のホームページに設けてあります。土地水資源課のアドレスに回答してくださいということで、県で意見を受け付けることは出来ます。

(井上先生)

前回、議論したのか、しなかったのか分からないのですが、質問シートと振り返りシートがあって、質問シートは演者への質問であって、それについてはユーストリームでの対応は考えていないと。振り返りシートの内容は講座の内容についての感想的意見であり、講座の運営についての意見であり、我々運営チームについての意見をいただくということになると思います。講演者の方に後で質問するというのは、大変だと思いますので、そのような内容ならできると思います。

(原田委員)

はい、私もそのように認識しております。このペーパーはあくまでその日のためのもの。映像を観られてどうしても意見を発する方は、次の運営会議に活かすためのもの。

(戸田リーダー)

つまり、我々に対する意見ということですね。では、フィードバックというのはメールか何かで返してもらうことにしておいて、それに対してはこの運営チームの中で発表し、どのように対処していくかを考えていく。という対応をしていきたいと思います。

(原田委員)

返事をする「答える」のではなく、運営チームでそのご意見に「応えて」行きたいと思います。

(戸田リーダー)

では、そういうことで。

(小島政策顧問)

了解しました。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。

では、第1回目については大体以上なことだと思いますが、よろしいですか。もしご意見があれば。

それでは、残された時間、今日は11時半までですが、第3回の連続公開講座を決めれば大体終わりだと思います。これまでですと、1回提起をすると次に内容を議論する。



その次に演者が決まる。と、3回プロセスとなっております。それでいきますと、今日第3回のテーマと担当の委員を決めて、次回9月くらいに内容について議論して、次回の10月6日に演者が決まるという構造で、おそらく11月末頃に第3回の大体の構造になるかと思えます。そういう点から言いますと、今日第3回のテーマと担当を決めておかなければならない。挙がっているテーマが「流域って何」「ダムって何」これは1回と2回で対応します。「安全・防災」「農業と水」「河川と魚」「三河湾と魚」「ダムサイトの技術」「水源地振興」「税と投資」「総括」が10のテーマです。もちろんこれの一つずつやるのもいいですし、まとめてやるのも一つだと思います。先ほどから挙がっていますが、順応型ということで、本当は終わって次というのが分かりやすいですが、時間的制約がありますので、第3回あるいは第3回以降について、今日やってみないとわからないという意見もあると思えますが。テーマと担当を決めたいと思えます。

(井上委員)

1回目と2回目が総論ということでこれからやるのですが、3回目以降の「安全・防災」「農業と水」になってきますと各論になります。そうするとそれぞれが続いていくというのではなく、3つそれぞれの担当を決めて準備を進めていくのもありだと思います。準備が出来たものから、第3回、第4回、第5回と開催していけばいいと思います。3つのテーマと担当を決めて、今回の質問の内容あるいは、振り返りシートで頂いた内容などを反映していけばいいと思います。

(戸田リーダー)

井上委員からの意見は、3つというのは年度内に3つぐらいだろうということですね。先回の第4回の時にいただいたスケジュールだと思いますが。それぐらい出しておいて、担当も決めて、次回以降の進め方を検討していく。いずれにしても、次回は、一つは内容が提示されないとその次が開催できない、時間的にですね。まずテーマから決めたいと思えます。

(蔵治委員)

私も今日の段階で、3つくらい選んでおくことは賛成です。具体的に提案したいと思うのですが、やはりここにいる委員は、専門性があるようなテーマの方が恐らく準備がしやすいという点と、やはりこれまで議論されてこなかったような論点というのをあえて先に取り上げるというのも多分新鮮味があって良いのかなと思えます。そうしますと、「安全・防災」の「治水」のような部分は今回も次回も結構出ると思えますので、ここで「治水」の話をするると続きすぎる印象がある。「農業と水」は極めて本質的ですが、これもじっくり準備をしたり、専門性を補う準備をする必要がありますので、私は井上先生が専門とされている水質であるとか、河川の環境問題ですね、それもテーマですし、

優先的に先にやればよいと思います。「三河湾と魚」というのも今、かなり知事も力を入れてやっているテーマの一つだと思いますので、この二つを取り上げたらどうかと。あともう一つは、戸田先生が専門とされているところ、あるいは小島顧問が言われている「税と投資」なのがあるいは「水源地振興」という辺りで一つ取り上げるというのがバランスかなと思います。

(戸田リーダー)

蔵治委員から意見のありました、防災、水というのは次回でも触れられていくだろうということなので、少しそれを先に送って、準備をしていって、そこに触れられない、環境それから税、あるいは地域振興、こういうことをテーマにしてみたらどうかと。いかがでしょうか。それで行こうというのも一つですし、いや違うやり方があるという意見もあるのかと。

(富永委員)

今の意見に賛成です。ただ、水質という項目がないですが、全部水質がミックスした形で提案ということですか。

(蔵治委員)

「河川と魚」というのは極端な例を挙げておりますが、河川の水質という議論であり、三河湾の水質とか魚だけではなくて、河川環境ということも大事だということを出ている。河川環境の話と三河湾の話が別々に出てきているということです。

(井上委員)

水質というだけではなく、河川環境という図で、魚だけではなく色々なものがどう係るのかとか、ただなかなか専門家がないのですが、水質について何かやろうとすると考えなければいけないテーマだと思います。

(小島政策顧問)

いいと思いますよ。

(戸田リーダー)

では、概ねそういうことで進めていくということで、担当を決めるということになります。水質の環境ということになりますと、井上先生が専門ですので、三河湾と魚となるとこれはどなたになりますかね。もちろん専門家を誰かに頼む訳ですけど。

(蔵治委員)

適任者を探してくるということなら、私でも出来ると思います。

(戸田リーダー)

それで、税と振興は小島先生と私と指名がありましたので、ご相談しながらどうするか考えさせていただきたいと思います。そうしますと環境についてもう一方、それから三河湾についてもう一方お入りいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(原田委員)

専門性はまったくないですけど、三河湾となると食の感じなので、私はこちらの方がいいのかなと思います。

(戸田リーダー)

そうすると、原田さんが「三河湾と魚」と、河川の環境については富永先生にお願いしてよろしいですか。

(富永委員)

はい。二人ですよね。

(戸田リーダー)

河川環境と三河湾の生物そして、税、水源地振興こういう順序で担当してやっていく。河川環境については井上委員と富永委員、湾環境と生物については蔵治委員と原田委員。そして税と地域振興、社会学的なことは小島顧問と私が担当する。次回のを一つ出していただきたいと思うのですが、できれば時節柄でもありますので「三河湾と魚」はどうでしょうか。第3回を目処にしてほしいのですが、よろしいでしょうか。

(蔵治委員)

分かりました。がんばります。

(原田委員)

そうすると、サイドイベント拡大版ですね。お腹いっぱいになっちゃう企画版でよろしいでしょうか。

(戸田リーダー)

ご検討いただければと思います。

3つ方向が決まりましたので、これで第3回の連続公開講座、もちろん内容について

は本日の講演内容等に影響されてくると思いますので、それを踏まえながら決定をしていくということになると思います。その他ございますでしょうか。

(井上委員)

しっかり議論しているのか、していないのか分からないのですが、講師の選定方法をもう一度考えたほうがいいかなと思います。この場では名前を出さないということですが、我々の中でお願いする前に、講師はこれでいいのかという確認をする場があってもいいのかなと思います。あるいはどういう先生がいいですと提案する場があって、みんな合意してからお願いすると。そういう風にしていった方がいいかなと思います。

(戸田リーダー)

セミナーを開催するまでに3回の会議がある。今日は担当とテーマを決めた。次の回に内容とこういう人というのを決める。その次に、丁度今日ですね、講師の発表を行うと。

(蔵治委員)

次の第2回のセミナーより前にもう一度チーム会議が行われると。

(戸田リーダー)

そういう想定です。

井上先生の提案は、二人だけで決めるのはなかなか難しいのではないかと。他の担当者以外の方もこういう人がいいのではないですかと、推薦の枠を広げていこうということですね。方向性を決めるのはもちろん公開ですので、この場で決めていくことになります。

(原田委員)

この場では名前のやり取りはしないからですよ。

(戸田リーダー)

推薦は自由です。

推薦していただいて、このような人がこのテーマにいいですよと担当者の方に説明していただいて、決めるのはあくまで担当者が決める。2回目のときに、次回ですね、例えば例示すると「三河湾と魚」ということについては、次回どういう構想でやるかということと、こういうタイプの人でやりましょうということを決める。

(原田委員)

ちなみに、その次どちらかとかいうことまで決めなくてよろしいですか。

(戸田リーダー)

第4回目ですか？税と投資ですか？

(小島政策顧問)

ちょっとタイミングによるので、相談させてください。

(戸田リーダー)

まず3回目までを決めるということで。

(事務局)

会場とかの話もありますので、大体の日程を決めていただけると助かります。

(戸田リーダー)

第3回の概ねの日程を、当然講師の都合もありますので、候補日を決めたいと思います。そのための、もう一回9月中旬くらいに運営チーム会議を行いたい。その日程を決めさせていただきたいと思います。決めやすい場所からいきますと、今度は第1回が東三河地域、第2回が名古屋ですから、第3回はやっぱり東三河地域でということになりますかね。

(原田委員)

東三河地域なので、もしかしたらもっと湾に近い方だとかの可能性もありますね。

(戸田リーダー)

日にちの問題ですが、まずは日にちだけ決めて場所等を。日にちは多分委員の絶対要件になってきますから、第2回が10月6日ですから11月の末、そこで最終決定をして広報に流すということになると1ヶ月以上空けないとならないですね、ですから11月の末ということになります。土曜日ということが概ね合意を得ていますので、それでいくと11月17日、24日。

(原田委員)

24日はダメです、10日か17日で。日曜日でいきますか、18日か25日で。23日は祝日ですね、大丈夫です。

(戸田リーダー)

23日は祝日でも同じことですね、23日を第一候補としてなるべくこの日に。

(原田委員)

23日か25日で。

(戸田リーダー)

もう一つくらい候補を、では先にいきましようか、12月1日、2日。(各委員調整)  
では二つで23日か25日でなるべく23日でお願いしたいということで。次については、11月末ですから年内は難しいと思いますね。1月の初めは難しいので、1月の末くらいになると思いますが、19日か26日、12日は早いですか、では12日、19日(委員からセンター試験の日程についての発言)。では、これは保留し、センター試験が分からないから、ちょっとそれは調整ということにさせていただいて、これを3回までに。

9月頭にもう一度運営チーム会議をするということになりますが、それはウィークデーで結構ですので、できれば第1週ぐらいで、この時に第3回の内容を決めたい。9月の第1週、3日の週で。

(原田委員)

名古屋ではダメですよ。

(戸田リーダー)

第2週はいかがですか、10日の週。(各委員調整)

12日の午前で、これはいつものように東三河県庁で。

(事務局)

9月12日の午前ということで今お話をいただきましたが、その日、東三河県庁のいつもの会議室は先に予約が入っておりますので、そこ以外の豊橋市内の会場を調整します。

(戸田リーダー)

そういうことで大体スケジュールは決まりましたので…。

(事務局)

よろしいでしょうか、少し話が戻りますが。第3回の公開講座の日程で11月23日を中心に25日というお話をいただきましたけれども、会場は東三河県庁を予定させて

いただいてよろしいでしょうか。探す場合に会場の都合もありますので、祝、日であれば東三河県庁舎であれば多分使えると思いますけれども。

(原田委員)

もう東三河県庁舎は会場としての容量が足りないということで本番にはふさわしくないということになったと思います。今日のように広い会場で場所を選定していかなくてはと認識しておりますけど。

(事務局)

足りないということは容量が無いということでしょうか。

(原田委員)

人数。

(事務局)

東三河県庁だと150名くらいですけど。

(原田委員)

もうその話は終わっていますから、なので今日この会場をお借りしているかたちで、300人以上の会場にしませんか。

(事務局)

300人以上の会場ですか。23日か25日で探した時に無ければその時は難しいということも…。

(原田委員)

探せばいいと思って、会場の話になると例えば三河湾の話になりますので、もう少し三河湾に近くてもいいのではないかとこの可能性も出てきますよねとの認識でいいですか。その会場の案を今出してもいいかも知れませんね。

(蔵治委員)

それはちょっと今日直ぐには難しいので、次回9月の会議の時に会場についての具体的な希望もできるだけ早く提案してもらって。

(戸田リーダー)

それまでに早く場所を探すということですね。

(事務局)

東三河地域で例を挙げれば蒲郡、田原等も含めてということで豊橋に限らないというお話を前提ということで理解してよろしいでしょうか。

(原田委員)

逆にその地域の県の施設で300人規模のものがあれば教えていただきたい。田原の方に行ってもいいですね。

(戸田リーダー)

これは即答できないと思うので宿題ということで。

(事務局)

そこまでの資料は持ち合わせておりませんので即答は難しいですが。

(戸田リーダー)

内容ともちろんスケジュールの方も、講師の都合もありますから、それも合わせて検討していくということで。次回9月12日の午前の時にその辺のところを出します。

今日の議論しなければならぬ項目は終わったと思いますが、その他何かございますか。

(蔵治委員)

今日の第1回セミナーの確認をしておいた方がいいと思いますが、基本的には前回のチーム会議で私と井上先生から示させていただいた当時の資料2の案がありますが、このとおりの時間スケジュールで問題ないわけですね、藤田先生も私も30分ずつでよろしいですね。それと今日の振り返りシートと質問票は今承認されたと思いますが、これを今後公開するのとか少なくとも9月12日の会議では何らかの整理がされて、ここで見ないといけないということがあるのですけど、その辺の取扱いについては今日のセミナーの冒頭である程度口頭でも決めていただかないと、当然名前は公開しないと思いますが、どこまでどういう形で公表するのかを決めておいた方が本当はいいですね。

(戸田リーダー)

では、ご意見はここまでということで。

(蔵治委員)

やはり質問シート及び振り返りシートについては、男女年齢等は要らないと思うので



すけど、どんな意見があったとかの自由回答だけでも表に整理した形でホームページに公開して、9月の会議でもそれを元にして議論した方がいいのかなと思います。

(井上委員)

振り返りシートについてはそれでいいですが、質問についてはそこまでする必要はないかなと思いますが。質問が今日たくさん出た場合を考えると、1時間と考えて例えば60個質問が出たら一つ1分ですね、その間に質問をして答えをすると60分でできる訳がないと思うのです。そうすると全部終わらない可能性があります。それをどうするかどうか。ただ質問が20個とかで全部終わってしまっていたら、その時は要らない、ケースバイケースで変わってくるかと思いますが。

(戸田リーダー)

これは講座も議事録は公開される訳ですよ、この運営チーム会議も全部公開していますが、そう考えていいですか。

(事務局)

よろしいです。講座の内容についてはユーストリームで流れていますので内容については何回も繰り返し見られますので、その内容についてのテープ起こしは多少時間がかかるかもしれませんが。

(戸田リーダー)

取り扱われた内容についてはそこで提示されるということで、ただ親切にという意味で言えば当然まとめたもの。振り返りシートはまとめられていませんから、それをまとめたものについては当然、次回か次々回か分かりませんが、この会議に資料として提示される。そちら側からも見られるようにすることが大事ですね。それについては午後の冒頭の時にいずれにしても説明しますから。

時間が少し無くなりましたがフロアーからご意見ご質問があればいただきたいと思うのですが。本当に数分しか今日は時間がとれなくて申し訳ないですが40分には終わらなくてはいけないのでご意見等あれば、挙手のうえご質問とあわせてお願いします。

(伊奈氏)

設楽町の伊奈と申します。質問シートと振り返りシートの件ですけれども、質問シートについては先程お話がありましたように演者の内容について質問をすることに限られることで、振り返りシートについては運営委員の方が次回の運営のために参考にする解釈していいですね。では演者に対する意見はどこに書けばいいのですか。

(戸田リーダー)

他にもしあればまとめて答えたいと思いますが、他にいらっしゃらなければその点についてどうでしょうか。

(原田委員)

多分見ていらっしゃるのは2回目の方のこちらですよ。これは「質問と感想をお聞かせください」に書き換えようと思っていますので、それと160文字という枠を取りまして、それを修正案として出します。

(戸田リーダー)

今日もそうですので井上先生から何かございますか。

(井上委員)

意見をどう扱うかは難しいですね。

(蔵治委員)

今日の質問は質問シートの方なので、意見は振り返りシートの方になると思います。振り返りシートに「今回の講座についての意見をお願いします」との欄がありますので、ここに書くしかありません。それは講師に見せる、回答するとは別にして、それで今日のディスカッションの間には基本的には意見については取り上げられないというか、基本的には質問をし、内容を深めるところに留まらざるを得ないのかなと考えました。だから振り返りシートに書いていただいて、それは私どもも読みますけど、講師に対する意見であれば講師にも見せるということにしなければいけないと思います。

(戸田リーダー)

質問的意見もあり得ますよね。意見の扱いはそういうふうにさせていただくことでよろしいでしょうか。例えば今日の場合は、井上先生がまとめたものから抽出して質問をする。場合によっては直接書かれた方に発言を求める。

(蔵治委員)

ご意見をこんな小さな枠に書ききれないということが当然あると思うので、ご意見があれば別紙で出していただければ全部公開されるし、皆が読んで議論する材料にできるのかと思いますので、多分後日でも構わないかと思います。

(小島顧問)

こういう整理ですかね。先程の流れからすると質問はその場で答えてそれで完結です

よね。振り返りシートに書かれる事柄はあとで整理をしてホームページに載せるという整理。そうするとこういう意見を言ったということをちゃんと残してもらいたいという場合には、振り返りシートの方に書くということになりますね。議事録の場合にその場で全部当てられれば議事録に載るのだけれど、時間がなくて当てられない場合がありますよね、当てられない場合は議事録に載らない。しかし振り返りシートに書いてあるものは後にホームページに載るということだから、意見を言いたい人はどうするのかというと、まずは振り返りシートに書けば必ずホームページには載るわけですよね。同時にその場合、講師の見解も聞きたいということが質問的な意見という整理でしょうかね、分かります。なかなか井上さんがうーんと言っていましたので、裁量が難しいだろうなと思っていましたが、そういうことでしょうか整理すると。

(伊奈氏)

何となく分かったような分からないような。実際には質問プラス意見ということになるんですね。この方がこういうことを言われたけれどそれについて本当はどうなんでしょうか、私はこう思いますと付け足した場合に、どっちに扱われるのかな、意見として整理されてしまうのか中々ややっこしいところですが。

それから質問シートに書かないものについては取り上げないと言われたんですが、実際には本日の講演を聞いて、そして質問シートには書かなかつたけれど、いろんな意見を聞いてさらに自分はそれについて質問をしたいとか意見を言いたいというのが出てくる場合がありますよね。そういうものはずっと我慢をするというのも何かなと思って、もう少しフリーに自由に喋れるような場を、あんまり規制をしてしまわずに自由に話せるようなフリートークできるような格好にさせていただいたらありがたいなという私の願いです。

(井上委員)

それはどれだけ質問シートが出るかにもよりますよね。やはりフロアーから聞くよりは質問シートに書いていただいた方を優先しないと、それについては全部その場で答えを出すのが基本だと思います。それで質問が少なくて自由にできるような時間的余裕があればフロアーから聞くことももちろんありますし、その場の雰囲気。先程その場の雰囲気でやらせていただくというようなことを言ったのはそういうところで、ただ質問シートが残っているのにフロアーから聞くというのは、一つのことで議論を深めるのはいいのかもしれませんが、こういう公開の場で多数の方が参加していただく場合には公平感に欠けるところがありますので、まずは質問シートに書いているところから始めたいと思います。

(蔵治委員)

今のご質問に対しては、この第1回、第2回のセミナーというのは非常に堅苦しい形式で演者を2人立ててみたい雰囲気での今のところ進んでいるのですが、元々この講座の企画段階では、何とかのタベとかサロンとか色んな提案があったわけですね。そういう非常にフリーな感覚で、こんな壇上と下みたいなことじゃなくて、自由に話し合おうよというところが出発点だったと思いますので。それはやっぱり第3回目以降で、毎回、1回2回というようなスタイルでやるのがいいかどうかは慎重に考えて、そういうタベとかサロンのものを取り入れていかなきゃいけない気も非常にしますけれども。それは確認しておきたいと思います。

(戸田リーダー)

そうですね、まさに順応型ということですから、今日の1、2回質問の出具合もありましょうし、その内容もありましょうし。今日は格段に段になっていますけれども、これを意図したわけではありませんので。なるべくフランクにできるようにと思います。

よろしいでしょうか、全部答えを聞いておりませんが、各委員からよろしいでしょうか。それではちょっと時間が過ぎましたが事務局の方へお返しします。

(事務局)

長時間に亘りありがとうございました。本日は午後1時10分からこの場で設楽ダム連続公開講座第1回とよがわ流域県民セミナーを予定しておりますので、委員の皆様には引き続きご出席をお願いします。また、お申込みいただいている皆様方におかれましてはご参加いただくことをよろしくお願いします。どうもありがとうございました。